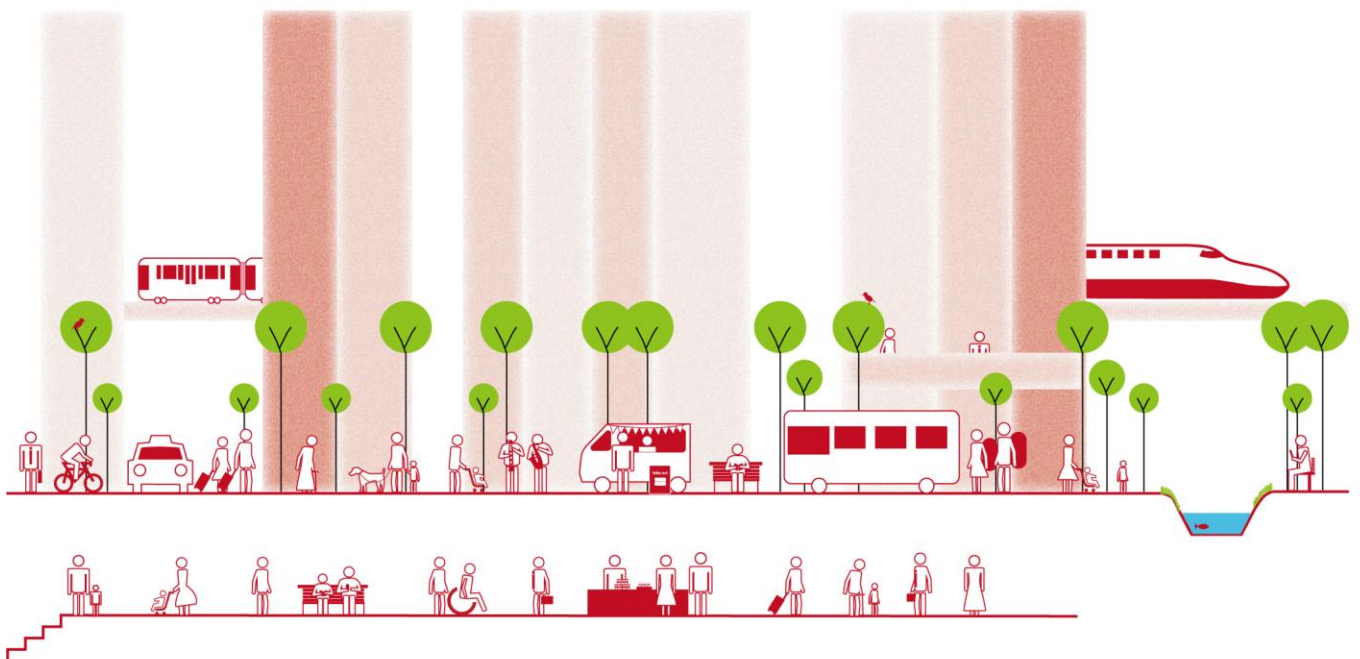

札幌駅交流拠点まちづくり計画 (概要版)



平成 30 年 (2018 年) 9 月
札幌市

I 目的と位置づけ

1. 背景と目的

■ 背景

- ・ 第2次都心まちづくり計画（平成28年）において、北海道・札幌の国際競争力をけん引する広域交流の先導的な拠点として札幌駅交流拠点を位置づけ
- ・ 海外からの観光客増加、冬季オリンピック・パラリンピック招致
- ・ 北海道新幹線札幌開業（2030年度予定）を見据え、再開発の動きが活発化する一方、低未利用の街区も存在

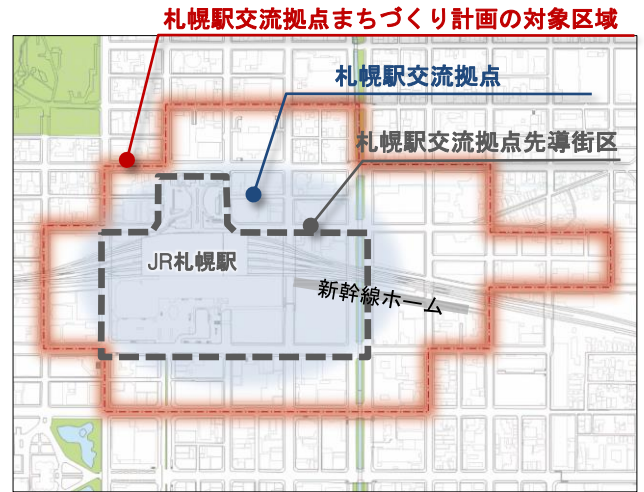
■ 目的

- ◆ 札幌駅交流拠点の再構築へ向けた目標・取組の方向を明確にする
- ◆ 市民・企業・行政等がまちづくりの目標・取組の方向を共有することで、今後のまちづくりを協働して推進する

2. 位置づけ

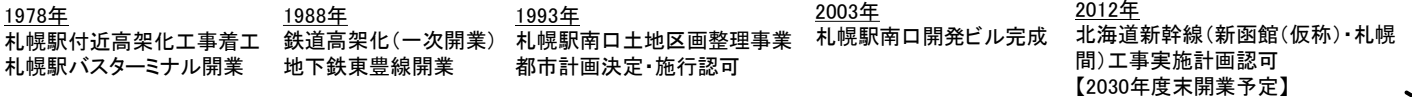
- ・ 「札幌市まちづくり戦略ビジョン」や「第2次都心まちづくり計画」等の各種上位計画に即す
- ・ 平成24年の有識者委員会による提言及び平29年2月策定の「札幌駅交流拠点先導街区整備基本構想」を踏まえる
- ・ 目標年次は、北海道新幹線札幌開業（2030年度予定）とする
- ・ 市街地総合再生基本計画（国交省所管・交付金交付対象）として策定する

3. 対象区域



II 目標と基本方針

1. まちづくりの経緯



札幌駅周辺地区整備構想（第一次）
（1979年3月）

札幌駅周辺地区整備構想（第二次）
（1992年5月）

札幌駅交流拠点まちづくり計画
（2018年9月）

2. 目標と基本方針

目標

1 北海道・札幌の国際競争力をけん引し、その活力を展開させる「起点」の形成

第2次都心まちづくり計画における札幌駅交流拠点の位置づけを踏まえ、道都札幌の玄関口にふさわしい空間形成と高次都市機能・交通結節機能の強化を図る。

2 北海道新幹線札幌開業を見据えた再整備の確実な推進

北海道新幹線札幌開業（2030年度予定）の効果を高めるため、道内外からの来訪者の増加も見据えながら、札幌駅交流拠点の再整備を確実に推進する。

基本方針



1. 街並み形成

現状・課題

- ・北海道の玄関口としてにぎわい空間や滞留空間を充実させる必要がある
- ・札幌の開拓の象徴である創成川に面した東西市街地の一体的な街並みやにぎわいの創出が求められる
- ・積雪寒冷都市の気候特性を踏まえた快適な都市空間の充実を図る必要がある

取組の方向

(1) 道都の玄関口にふさわしい風格とにぎわいのある顔づくりを進める

- ①新幹線駅施設と周辺開発の連携によるまちづくり
- ②パブリックライフ※を実現する南口駅前広場の再整備
- ③地下と地上を結ぶ結節空間の充実
- ④南口駅前広場と創成東地区との結びつきを高めるオープンスペースの形成
- ⑤駅とまちが一体的に感じられる景観の形成

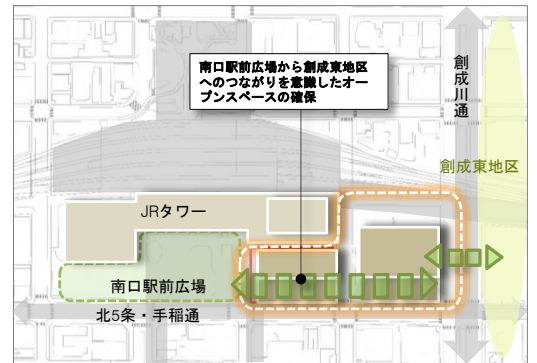
(2) 歩行者中心の回遊性の高い空間を形成する

- ⑥都心のにぎわいと活力を象徴する骨格軸・展開軸の空間形成（駅前通、創成川通、東四丁目線）
- ⑦回遊性を高める歩行者空間・辻広場の形成
- ⑧界わい性が感じられる多様な通り抜け空間の形成

(3) 北海道・札幌の気候特性に対応した空間を形成する

- ⑨1年を通じて快適な屋内公共空間の形成
- ⑩質の高い地下歩行者ネットワークの形成

※パブリックライフ：働く、学ぶ、遊ぶ、住むといった基本的な都市の生活を支える交流・社会活動。言葉を交わす直接のやり取りだけでなく、人と人、人と都市空間との間の豊かなコミュニケーション活動。



▲南口駅前広場からの連続した空間確保のイメージ

2. 基盤整備

現状・課題

- ・新幹線札幌延伸に対応した交通基盤の再整備が求められる
- ・札幌駅南口のバス乗降場がバスターミナルのほかに路上にも分散している
- ・バスターミナル内の通路幅・待合空間が狭い
- ・地下鉄・JR在来線・バス等の主要な交通機関を結ぶ乗換経路において段差等があり、バリアフリー化が図られていない
- ・路上駐停車や駐車場入庫待ち車両等による交通混雑が発生している

取組の方向

(1) 新幹線駅施設とまちをつなぐ交通基盤整備等を進める

- ①新幹線駅につながる歩行者動線の確保
- ②創成東地区との連携の検討

(2) 各方面と札幌駅とのアクセス性を向上させる

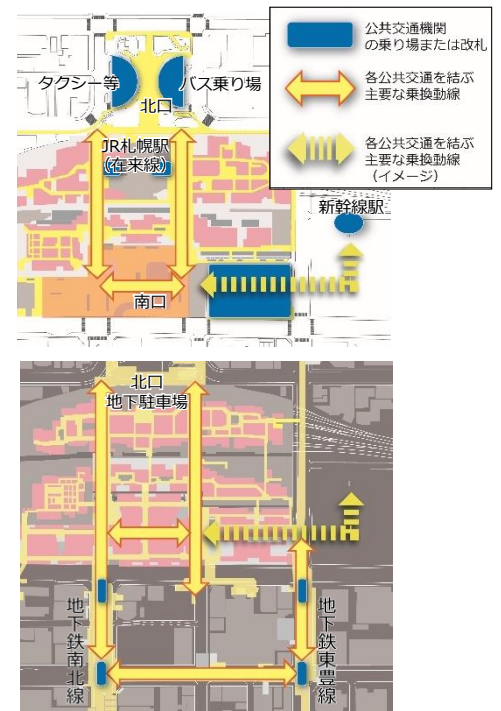
- ③都心アクセス強化（創成川通の機能強化）との連携

(3) 利便性の高い交通結節機能の充実を図る

- ④バスターミナルの再整備
- ⑤新幹線需要を見据えた観光・団体バス乗降場の確保
- ⑥タクシー・一般車乗降場の配置

(4) 人とにぎわいの形成に配慮した交通環境を実現する

- ⑦誰にでもわかりやすく、バリアフリーに配慮した歩行者動線の整備
- ⑧駐車場・駐輪場の適切な確保



▲歩行者乗換動線のイメージ（上：地上、下：地下）

3. 機能集積

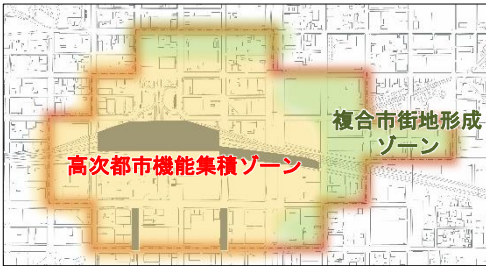
現状・課題

- ・ 街区ごとの特性を活かした機能集積が求められる
- ・ 国際水準のホテルや高機能オフィスが不足
- ・ 駅利用者や観光客等に対する情報発信機能や案内窓口の強化が必要
- ・ 札幌駅北口地区、創成東地区における居住者や就業者の生活を支える機能の充実が求められる

取組の方向

(1) 街区ごとの特性を踏まえた都市機能の集積を図る

① エリア特性に合った機能の配置



高次都市機能集積ゾーン

◆ 新幹線・バスターミナル等と直結する広域交通結節点として、札幌・北海道の国際競争力をけん引し、観光・交流機能やビジネス機能等の核となる高次都市機能の集積とそれを支える機能の導入を図るゾーン

複合市街地形成ゾーン

◆ 広域交通結節点に近接した利便性を活かしながら、居住者や就業者の生活を支える多様な機能の導入を図るゾーン

(2) 新たな交流・活力を生み出す都市機能の集積を図る

- ② にぎわい・交流機能の強化
- ③ 宿泊機能の多様性の向上
- ④ ビジネス環境の充実
- ⑤ 観光・産業振興に資する機能の強化
- ⑥ 起業支援機能の創出



▲ 多様な案内・サービスにより来街者をサポートする観光案内機能イメージ



▲ まちの様々な情報発信を行うシティギャラリーのイメージ

(3) 多様なワークスタイル・ライフスタイルに対応した都市機能の集積を図る

- ⑦ 居住機能の適正な立地（複合市街地形成ゾーン）
- ⑧ 仕事や暮らしを支える機能の形成

4. 環境配慮・防災

現状・課題

- ・ 地域冷暖房ネットワークが整備されている
- ・ 地下歩行空間は一時滞在施設としての機能も有している
- ・ 環境負荷低減への対応を強化する必要がある
- ・ 災害時の滞留者等への対応を強化する必要がある

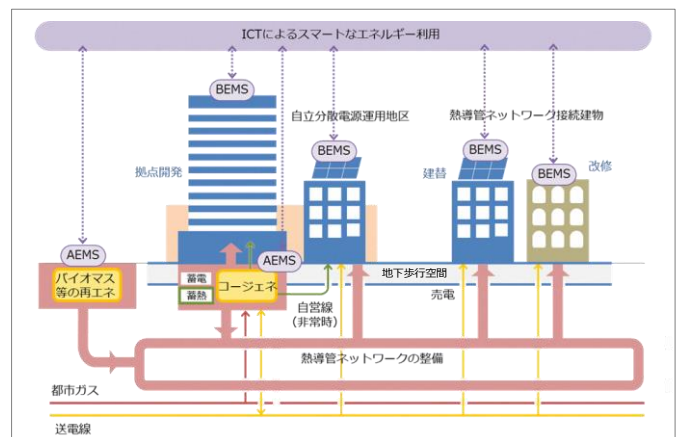
取組の方向

(1) 低炭素で持続性が高く、みどり豊かなまちづくりを実現する

- ① 省エネビル化への誘導
- ② スマートなエネルギーの面的利用の拡大の検討
- ③ みどり豊かで快適な屋外・屋内環境の形成
- ④ モデル都市としての情報発信

(2) 強靱で安全な都市環境を形成する

- ⑤ 業務継続性の向上
- ⑥ 安全な都市環境の形成

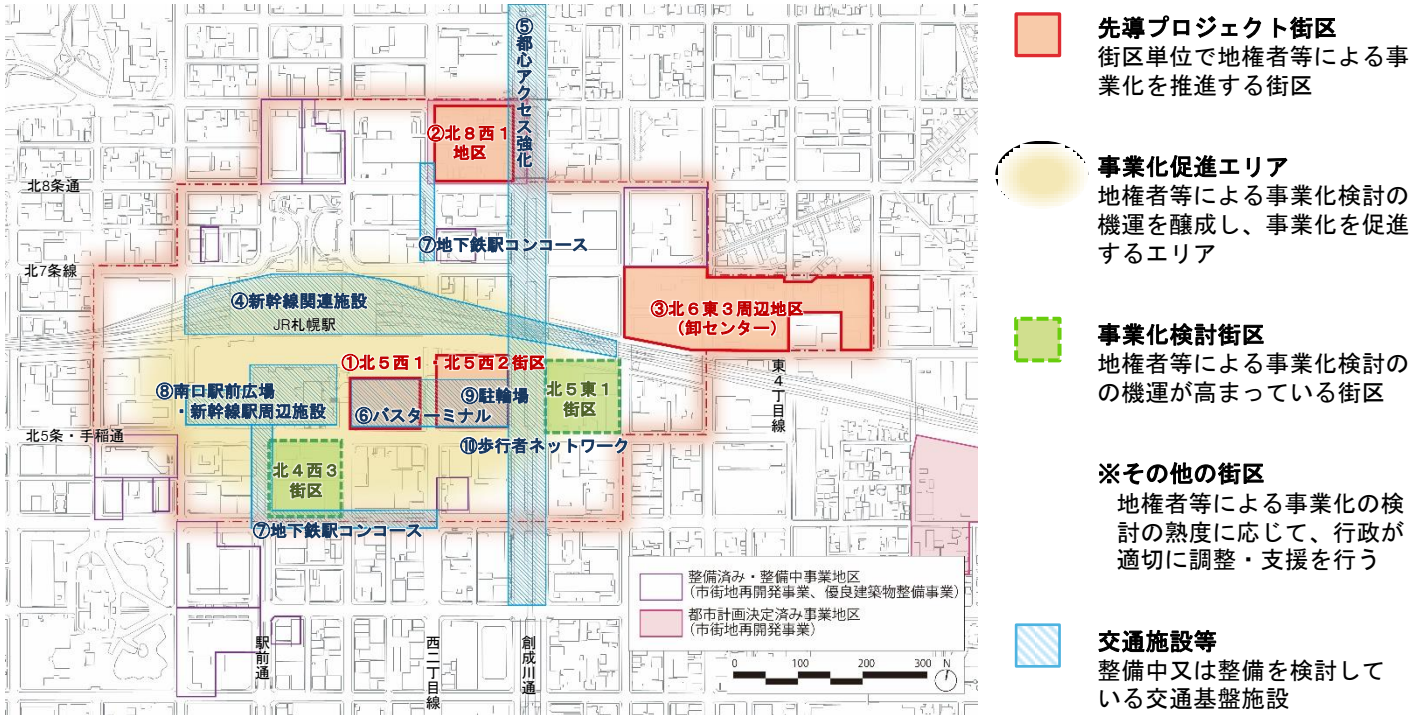


▲ エネルギーの面的利用のイメージ
(出典：都心エネルギーマスタープラン)

Ⅳ 計画の推進

1. 先導プロジェクト等の推進

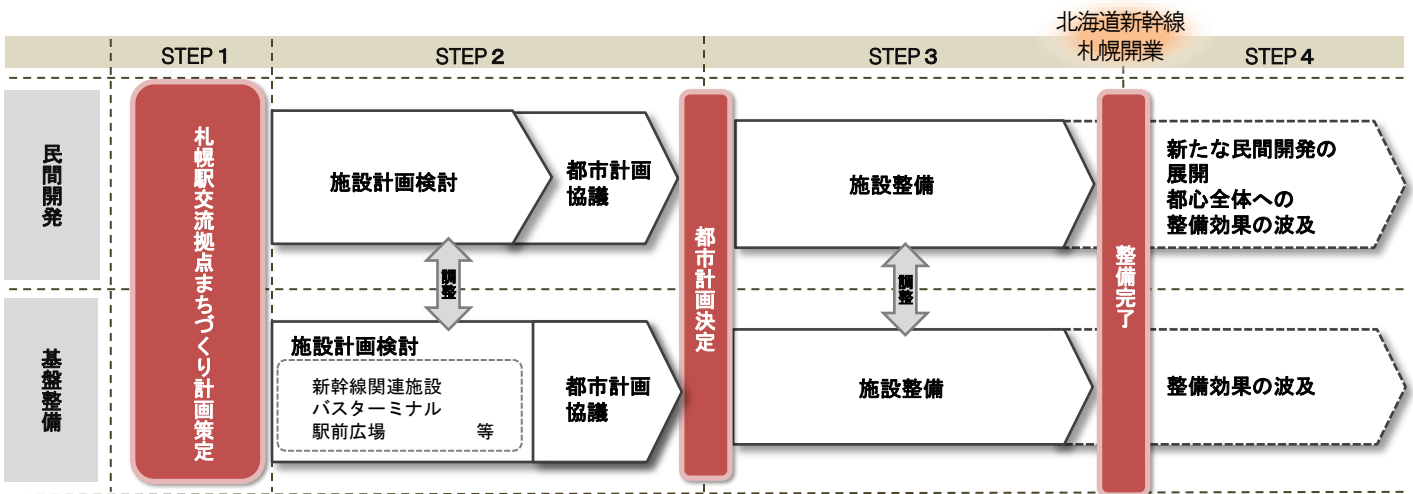
(1) 先導プロジェクト等の位置づけ



(2) 事業化にあたって重視すべき視点

- ①民間施設と都市基盤との連携確保
- ②各種事業手法等の適切な活用
- ③計画の柔軟な推進

2. ロードマップ



3. 取組体制

(1) 基本的な考え方：官民協働によるまちづくりの推進

民間→本計画を踏まえ、他の事業者等と適宜協力しながらまちづくりを主体的に推進
行政→民間事業者によるまちづくりの支援・調整と必要に応じた基盤整備

(2) 当面の取組体制：まちづくり協議会の継続

まちづくりの動向の情報共有等を今後も継続

(3) 中長期的な取組体制：エリアマネジメントの強化

既存のまちづくり組織とも連携しながら、エリアマネジメント組織のあり方等について検討
公共空間の有効活用によるにぎわいづくり等を持続的に展開

SAPPORO

札幌駅交流拠点まちづくり計画

《発行》 平成30年（2018年）9月

《企画・編集》 札幌市 まちづくり政策局 政策企画部
都心まちづくり推進室 札幌駅交流拠点推進担当
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
電話：011-211-2692 FAX：011-218-5112



さっぽろ市
02-B02-18-1903
30-2-1208
